

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100400		
法人名	有限会社 花のある家		
事業所名	グループホーム 花のある家		
所在地	〒849-0306 小城市牛津町勝813-2 (電 話) 0952(66)0217		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月7日	評価確定日	平成 20年4月10日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000 円				

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	5 名	女性	3 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かみぞのクリニック、福岡病院、高森歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

牛津町の住宅地に位置する。地域から孤立することなく、地域住民の理解ある環境の中で、ホームの理念「一緒に。ゆっくり。楽しく」のもと、ゆったりとした空間で利用者が自由にのびのびと過ごせる、あたたかい雰囲気でのサービスの提供がされている。四季の行事等を大切に、外出支援や、ホームの中もその時々季節感が感じられるよう工夫されている。又、食事にも旬の食材を取り入れ、彩りもよく、視覚、味覚共に楽しんで食事が出るよう工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果は誰もが閲覧できるところに設置しており、全スタッフで共通認識のもと、改善点に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>代表、管理者、副主任が話し合い取り組まれている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>12月に移転し、1月に実施された運営推進会議では民生委員や地域包括支援センター、入居者、家族等が参加され、ホームの概要、今後のサービスの取り組みについて話し合われている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の受診や物品購入の際には、随時家族へ連絡し状況報告されている。また、遠方に住まれている家族には電話連絡の際、入居者と話をしてもらいなど配慮がなされている。玄関には意見箱が設置され、また、運営推進会議でも持ち回りで家族にも参加してもらい、寄せられた意見については運営に反映されるよう取り組まれている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>移転が12月に行われ、設立に際しての地域の理解は説明会を開くなどして得られている。地域との連携については、現段階では運営推進会議に出てもらった程度で積極的な関りはまだもたれていないが、今後、地域の行事や老人会を通し、地域との連携が図られることが期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり、また、ホールにも「一緒に。ゆっくり。楽しく。」という分かりやすい理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時等にスタッフ同士で定期的に理念の確認をし、また、玄関口、ホール等に掲示することで日々理念を実践できるよう取組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会との交流はできつつあるが、まだ設立して間もないため、老人会や行事など、地域活動への参加には至っていない。	○	今後、自治会との交流を通し、ホームからも積極的に地域活動に参加し、更なる地域との交流を深めていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は誰もが閲覧できる場所に設置し、改善点に関しては、全職員に確認を促し、改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1月に実施された運営推進会議では、地域包括支援センターや地域の自治会長らが参加され、ホームのサービスについての取組み等が話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	まだ、移転したばかりで、現段階では1月の運営推進会議以外での積極的な関りは少ない。	○	12月に移転したばかりなので、これを機に今後の取り組みとして市の地域包括支援センターや、市の担当者にもホームの実情やサービスの取り組みを折に触れ伝えていかれることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	病院受診の際や、物品購入の際の電話連絡、遠方に住まれているご家族とは、本人の声も聞いてもらう等、個々に合わせた報告がされている。又、外出があった際などは、毎月の請求書と共に写真等を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、運営推進会議にはご家族の方に持ち回りで参加してもらい、寄せられた意見に関しては、サービスに反映できるよう取組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った際は、入居者への言葉掛けには十分な配慮をするよう指導し、入居者の不穏を防ぐための取り組みが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修があった際は、行ける時は参加できるようにしている。また、参加した際は資料を申し送りノートに添付しているが、内部での伝達研修はまだ実施されていない。	○	月に一度の全体会議を行う等をして、皆が研修内容を周知できるような取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の管理者やホーム長とは外部研修を通じてその後も交流があり、情報交換等は行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の入居者へは希望があった際には体験入所ができる。また、入居間もない入居者には家族も宿泊されることもあり、入居者の不安などを減らし、早くホームに馴染めるような取り組みがされている。また、入居後の経過はその都度家族に報告、相談する体制をとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみを手伝ってもらったり、掃除や洗い物の手伝いをしてもらったりと入居者のできることは職員も一緒に共有できる時間を持つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で把握された入居者の意向等は申し送りノートに記入し、サービスに反映されるよう取組まれている。また、入居者の意向により、近くまで一緒に散歩に出るなど、入居者の希望に沿った支援がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランはケアマネージャーと管理者が、現場のスタッフの意見も参考にしながら作成されている。	○	本人や家族の要望をふまえ、スタッフ全員で話し合い介護計画を作成することが望まれる。また、サービス担当者会議等の記録の整備が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は、スタッフが日々、記録している入居者の状態、状況をもとに3ヶ月ごとに見直し、変化があるときは随時見直し作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や、入居者の散髪などには、スタッフの送迎で支援され、本人や家族の状況に応じ柔軟に対応し、個々の満足を高めていけるよう支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院については本人、家族共に理解が得られている状況である。また、他の医療機関の受診を希望される際は、本人の希望に沿った支援ができるよう体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の家族の意向は把握できているが、その後の意向等は明確ではなく、全職員での方針の共有はなされていない。	○	入居時の意向とその後の意向は、本人の状態、状況等によって必ずしも同じとは限らないため、状況に応じその都度本人、家族と話し合い、意向を把握し、また、そのことを全職員が把握できるような体制作りが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いについては全職員に誓約書を提出してもらい、記録等の個人情報の保管はスタッフルームにてなされている。また、入居者のプライバシーを損ねることのないような言葉掛けや対応については適時指導され、実践に活かされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床など、できる限り入居者のペースを乱すことのない様、その時間等は随時配慮され、職員の業務の流れに縛られることのない様自由に対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際、支援が必要な入居者には職員が近くにつくようにされているが、テーブルの高さが入居者の車椅子の高さと合っていない方もおられた。	○	テーブルの高さと車椅子の高さを考慮し、個々に合った環境を整えることで、より本人の力を活かし食事を楽しむことができるように支援されることが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は昼間13:30からの入浴時間ではあるが、入居者個々の希望や状況に応じ時間を変えるなど臨機応変に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の能力に応じ、洗濯物たたみや掃除の手伝い等をして頂き、また気晴らしには職員も一緒に散歩に出かけたりして、本人が楽しめるようなサービス提供の支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全体としては季節ごとに外出支援が計画されており、また、日ごろから、個々の希望に応じ、ホーム周辺の散歩等適時対応されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵はかかっておらず、入居者が自由に入出入りできるようなケアに取り組まれている。また、玄関の扉は開けたらチャイムがなるようにされ、見守り体制を整えられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	移転して間もないため、まだ実施されていない。現在消防計画を作成している段階である。	○	消防計画を作成し、今後、地域住民、消防団など、事業所外の関係者も交えての訓練や研修等の実施が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は朝食時、10時のおやつ時、昼食時と15時おやつ時、夕食時と18時のホットミルクで、1日1000cc以上は取って頂くよう支援している。また、自発的訴えがない入居者に関しては、排泄の量等を見て、随時対応されている。食事についても摂取量の把握はされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り入れ、リビングはゆったりしたソファ、リラックスできるような心地よい音楽が静かに流れ、季節感を取り入れた飾りつけなど工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個人の希望に応じ、以前から使い慣れたものを持ち込まれたり、一人ひとりの居場所作りのための工夫がなされている。		